

⑤ 「失敗？」

開幕前から色々と言いついたソチ五輪が閉会した。ロシアが威信をかけて準備を進めてきた割には、宿泊施設が開幕直前まで完成しなかったり、観客席の塗装作業していたり。また、施設整備に伴う大規模開発で周辺の自然環境が破壊され、とくに五輪会場に近いアフシュティリ村では大量のごみが不法廃棄されもした。イスラム過激派の妨害宣言で懸念されていたテロの脅威に対しては、約7万人とされるソ連時代顔負けの軍や警察の動員によって封じ込め「プーチンの五輪」などと揶揄された。

中でも象徴的だったのは開会式セレモニーで、雪の結晶の電飾オブジェが徐々に輪に変わり五輪マークを形作る演出中に、一つだけ輪が開かず“四輪”になってしまったトラブルだ。その後も米国選手がバスルームやエレベーターに閉じ込められたり、選手村にバスタブが設置されていないことから、カナダ選手が特大のバケツにお湯を入れて代用したり、イスラム系の観客への入場拒否や、会場係が殆ど英語を話せないなどブサイクな話は続いた。

しかし、無事に閉会式当日を向かえた記者会見で微笑ましいことが起こった。何と、閉会式の総合プロデューサーを務めるコンスタンチン・エルンスト氏が、開会式の際にトラブルで五輪マークが“四輪”になったデザインをあしらったTシャツで登場し、報道陣の笑いを誘ったのだ。しかもそれだけでは終わらなかった。閉会式において、銀色の光を乱反射する外套を着た600人のパフォーマーが様々な形をつくった後、五つのグループに分かれ、まずは四つの輪を完成させたが、右上の輪がまたもや開かない。会場からざわめきが起きる中、最後に五つ目の輪も無事形成され、見事“五輪”が完成し、開会式での“四輪”のアクシデントを逆手に取った遊び心で会場を大いに沸かせたのだ。この吉本興業さながらの“オチ”に、逆説的とも言える聖書の言葉を思い出した。

「慰めよ。慰めよ。わたしの民よ。その労苦は終わり、その咎は償われた。

その全ての罪に引き替え、二倍のものを主の手から受けたと。」イザヤ書 40章 1-2節

である。人が引き起こすドジや失敗、恥などがひどければひどいほど、その逆境を跳ね返して返り咲いた時の喜びは大きい。キリストの復活の力によって、誰もが失敗を喜びへと変え、最後に笑う者となれるのだ。

